

滋賀の伊藤です。お世話になり、ありがとうございます。
猜疑心を持ちながらも、ここまでやって来ました。
松本先生から中間報告をと言われてから、すでに1ヶ月が過ぎましたが、
ようやく送る事が出来ます。
松本先生、多少失礼かなと思われる表現あれば、お許してください。
この中間報告を書き、感じたことは、折角インターネットですので、
患者同士の交流の掲示板、あるいはメーリングリストなどがあれば、
患者同士励まし合えて、更に頑張れるかなと思ったりしました。
まあそういう事はなかなか難しいのかなとは思いますが。

「リュウマチ治療中間報告」伊藤 昇 52歳

2006年5月12日
滋賀県在住

2004年10月に発症して、2005年3月に松本医院にて治療開始。他医療機関でのリュウマチ治療投薬経歴なし。

2005/03/08 滋賀県内リュウマチ専門医院で診察

一週間前から、朝起きる時に手の指の関節に痛みを覚え、自宅から60km離れたリュウマチ専門の医院に行く。前日に日ごろ通っている内科医院に相談したところ、総合病院への紹介状を書くよとは言われたのだが、どうもリュウマチのようだから、どうせ行くならと進められたのだった。この医師は独立開院するまでは医科大学の教授を勤め、県内外で有名なリュウマチ専門医である。問診があり手足を触診し、レントゲン撮影と血液採取があった。手にしびれを感じだしたのは、昨年秋頃。10月とすれば、すでに発病から半年が経過していることになる。左手のみかなと思っていた痛みは触診で右足の甲にもあった。

2005/03/09 リュウマチと診断

翌日再度リュウマチ専門医院に行く。検査結果は大当たり！権威のある教授先生にし

っかりと「リュウマチ」と診断された。7項目あるうちの4項目に該当すると。

- (1) 1時間以上続く朝のこわばり
- (2) 3個所以上の関節の腫れ
- (3) 手の関節（手関節、中手指節関節、近位指節関節）の腫れ
- (4) 手のエックス線写真の異常所見

血液検査でリュウマチ反応が陽性ではなかったものの、上記4項目に該当ということで、リュウマチだと診断せざるを得ないとのことだった。当医院を開業したころは薬の効きが約10%程度だったのが、最近では発見が早いせいもあり、30%強くらいになっている、としきりに数字を強調していた。しかし、治らないこと、薬で進行を遅らせるのが現在おこなわれている最良の治療であること、しかしこれも人に寄っては薬が効かず早く進行してしまうこともあること、等々不治の病であることを決して否定はしなかった。一生病と付き合っていくには行かなくてはならないことを説明される。無論ステロイドを服用することを前提としてである。抗リュウマチ剤と消炎鎮痛剤を処方され、次週は注射をすると告げられた。

2005/03/10 処方薬

昨日はショックで薬も飲む気がしなかったが、3月初めに痛みを感じてから、痛みを感じる回数が急に増え、仕方なしに処方された薬を飲み始める。

2005/03/11 インターネット

生きる希望が、これからの計画が、音を立てて崩れて行く。リュウマチがどんなものかステロイドがどんなものか十分に知っているが、それでも必死にインターネット上に救いを求めて検索している自分があった。不治の病、上手に付き合っていく、上手くいけば進行を止められなくとも遅くは出来る、それもステロイドを服用しての話である。ああ、どこにも治るなんて言葉は見当たらないのだ。しかし、一件だけ「リュウマチは治る」といっているホームページがあった。「治る」の文字に釘付けになり、貪る様にそのホームページを読んだ。医師の理論が記載されており、さらに完治した患者や治療途中の患者の手記もあわせてたくさん記載されていた。日本中でリュウマチを治せるのは（今は）自分だけだ、将来この治療法が普及することを望む云々とも書いてある。また、ステロイド剤を一切使わないとも書いてある。ちょっと怪しげだなとは思いつつも、画面に釘付けになってしまった。元来あまりそういった類のものには懐疑的なのだが、ホームページを読みながら思ったのは、「行ってみよう」だった。

2005/03/15 松本医院での初診

JR高槻駅に降り立つ。歩いて1分だという医院に向かって歩き出すと、やがて地図

通りのところにビルがありその2階に松本医院は確かにあった。入り口のドアを開けて入ると、漢方薬の臭いが待合室いっぱいに充満していた。本棚には患者の手記らしきものがズラリと並んでいたの、受け付けを済ませてその中から1冊取り出して読み始める。しばらくすると名前を呼ばれたので中に入ると、白衣を着た初老の女性がいろいろ質問してきた。いろいろ話をするうちに以前に患った花粉症を薬で抑えたためにリュウマチになってしまった可能性もあると言うのだ。確かにあの時は花粉症がかなり酷く罹り付けの耳鼻科の医者から薬を処方してもらって治したことが2～3年続いたのだった。私の顔を見て、「アトピーが口の周り出ていますね」と言う。全く自覚症状がないだけに、「そうですかあ」としか答え様がなかったが、アトピーが出ているのは良い良い傾向だと言われる。すでにホームページでリュウマチの後にはアトピーになると書いてあったのを読んでいたので、ちょっと嬉しくなってしまう。さらに待合室で患者の手記を読んでいると、今度は松本先生に呼ばれた。白衣を着ている、うーん、ホームページには白衣は着ないってあったがなあ。いろいろ聞かれたが、問診だけで手足を触ろうともしないのだ、聴診器も見当たらないし。ここに来る前に診てもらった医師の名を告げると、それはもうボロクソにその医師をこき下ろすのだ。最後に今日からお灸と漢方と鍼を始めるからと言われ、隣で採血をするように指示された。やっぱり触診はしないんだ。俺には「治る」って言ってくれなかったし、握手もなかった、見込みが薄いのか、それとも「治る」の握手は女性患者だけのリップサービスかあ、などとしょもしないことを思いつつ診察室を出る。受け付けで漢方薬を受け取りながら説明を聞く。漢方を煎じる？ちょっとたいへんかなあとかや尻込みするが、実はもっと大変なのが灸だなどとはその時はまだ知らないのだ。鍼を受けながらこの鍼は近所でも受けられるのかを尋ねると、「あなたは近いのだから毎週かまたは2週間に一度はここに通院しなくてはいけない」と言われる。遠くて通院出来ないっていうのは、東京より向こうかなあと言われてしまう。現に隣の人(カーテン越しのベッド)は静岡から日帰りで来ているしね、とことまげに説明してくれる。またもや、そうですかあ、としか答え様がなかったのだった。鍼治療のドアに貼ってある写真のことも患者さんの手記には書いてあったが、写真とはこれかあ！と驚いてしまった。一日1500個の灸、なんとこんなにも沢山するのか、これかあ、だ。全て終わって医院を出て振り返りながら、うーん、やっぱりここは普通じゃないぞ、でも、しかし、ここに来て良かったとも思うのだった。そして、きっと治ってみせると思うのだった。

2005/03/17 痛み

朝だけだった関節の痛みが日中にも感じられるようになった。左右対称の両手の指関節が痛む。我慢できない訳ではないので、生活には影響しないが、あまりにも進行の度合いが早いので、不安が増してくる。最初にリュウマチと診断した医師によれば進

行の度合いが早いか遅いかは発病してから2年くらいの状態と判断すると言っていたが、おいおい、これでは2年たった時点ではいったいどうなっているのだろう。

2005/03/20 お灸の辛さ

灸は熱い。市販の発泡スチロールに灸がついているものは少しも熱くないので、さほど気にはしていなかった灸だが、モグサを直接コヨリを作っている灸はそれはそれは熱いのだ。これを1日に500個とか1000個とかはちょっと考えられない。しかし、だんだん関節の痛みが出てきたし、何とか沢山お灸をやらなくては、治らないのだ。鍼は大丈夫、薬湯もOK、煎じ薬も問題なく飲める、しかし、このお灸だけは、ほんとに熱いし辛い。1日10個でも辛いのだ。でも、何とかお灸の数を沢山しなくてはならないので、市販の発泡スチロールの台座を利用してモグサを焼き切ってもなんとかその熱さに耐えられるよう工夫した。

2005/03/22 2回目の診察

今日は二回目の診察だ。予約していた鍼治療の後、血液検査の結果を聞く。CRP-0.05

RF-5、血沈-13。血沈以外はすべて正常値。昨日は花粉症が酷かったことを先生に告げると、前回に処方された赤い塗り薬を鼻に塗るように言われる。今度は「治ります。あなたが地球以外の星から来たんだったら無理ですが。」と握手をされた。他の患者さんの手記を読んで、自分は初期だしそのためのステロイドも飲んでいないしきっと早く治るに違いないと思った。握手していただいて「2週間分の薬を出します。」と言われたときには、さすがにホッとした。

2005/04/01 カラスの行水

漢方の治療を始めてから17日目、花粉が大量に発生しているらしく、花粉症に鼻はボロボロだ。赤い薬(お灸の後に使う塗り薬)を鼻に着けるのだがちっとも効かない、鼻が詰って呼吸困難状態だが、仕方が無いこれも治療の一環かと諦めるが、それにしても酷い鼻詰りで鼻の手術前に戻ったような感覚。これまで一度も無かったが、今回初めて目もゴロゴロして非常に辛い。ただ手の関節の痛みは感じない。昨夜に肩から手先までたつぷりと灸をしたのが効いたのだろうか、それともアトピーになるとリュウマチの痛みを感じないらしいが、これなのかと分からないなりに推測する。しかし、漢方治療を始めて2週間とチョットでそれはないだろうと、根拠も無しに否定する。風呂の時間はなかなか1時間は無理で、浴室滞在時間は40分が限度、長くても45分か。40分を過ぎるころになると最初の意気込みはすっかり何処かに行ってしまい、気が付くと脱衣所にいるのだ。温泉好きであちこちの温泉めぐりをするが、考えてみれば以前は1時間くらいは入浴は平気でいたものだが、自宅での入浴に関して言えば

最近はカラスの行水と化している様だ。

2005/04/10 リバウンド

痛みがあちこちに時間とともに移動する。朝に右中指第二関節が痛かったのが午前中は左小指第二関節、昼には左足甲、午後からは右手、、、夕方は、、、夜は、、、。先週火曜日に診察を受けたときにその事を先生に相談すると、それはもう烈火の如く怒ってカルテを示して「こんだけ0000000を飲んだら当たり前や」とそれはもうボロカスだ。ハッキリとは聞えず薬の名前は分からないのだが、兎に角花粉症で服用したと思われる薬の名前を連呼してさもお前が悪いがの如く、連呼連発なのである。まあ、これだけボロカスに云うのだから、おれはきっと治るのかなと何の脈絡もなく妙に納得してしまうのだった。それにしても、日替わり時間割の如く、痛みは切れ目なく移動している。花粉の飛散が少ないせいかな、あるいは赤い塗布薬が効いたのか、花粉症はちょっと治まっている。2～3日前から背中表面が痛かったのだが、どうもブツブツの出来物が出来ているらしい。皮も擦れて剥けているようだ。アトピーなのだろうか？次回診察まではなんとも判断不可能だ。まだ、たった3週間5日目、果たして？お灸は相変わらずで、一日500や1000などとは程遠い数しかこなせないが、それでも自分なりに頑張っている。指の関節の痛みは関節の曲がる方向とは逆の方向に指を曲げようとする力が加えられた時に感じる痛みそのものだ。なにもしていないのに「逆の方向に指を曲げようとされた時の痛み」が突然襲ってくる。手を摩りながら、どうして？と自分の指が愛しく思える瞬間だ。最近右膝に体重が加重される階段がちょっと辛い、つい弱音が出てしまう。下りもブウブウ云うのだが、まあ今のところは上る時にだけ拒否反応を示しているようだ。年齢を重ねれば誰でも、、、、と言うものなのか、それとも新たなリュウマチ痛か、あるいはリバウンドか、判断のしようが無いが、痛みが巖然としてある。

2005/4/19 血沈26

4回目の診療日。痛みは身体中を駆け巡る。ただ、耐えられない痛みではないので、生活する分には問題なしだ。全体的にどんよりとした痛みだが、時折刺すような痛みも襲ってくることもある。灸は足の甲や手の指甲がどうしても中心になってしまう。痛みがそこに集中しているからだ。先生から痛みはどうかと尋ねられたので、身体中を駆け巡っていますと答えた。鍼の織田先生は「痛みが日替わりで身体中を駆け巡るのは良い兆候です」と言っていたが、松本先生は特になにも言わなかった。前回の血液検査結果を見せられたら、なんと血沈が26にもなっていた、前回は13だったのに。前回の診察時は「風邪気味だったのが原因だろう、風邪でも血沈の数値が上がるから」との説明にホットする。治療を始めてからすでに5週目に入っている。前回の診察の時に過去の花粉症の治療に服用した薬のために痛みが身体中を駆け巡ってい

るとのことなので、即ちこの状態がリバウンドなのかと納得もし諦めもし、また手記で読んだようなベッドから起きられないような痛みではない事に安心もした。それでありながら、これから手記で読んだような起きられないような状態が来るのかと不安もまたある。それは取りも直さず、これがリバウンドなんだと教えてくれる訳でもなく、この先もっとあるとかもうこれまでだとかを先生が言ってくれる訳でもないし、この辺りが多少の不安材料かなと思っている。手記を読んでいると、ハイもう治りましたよっていう場面がちっとも出てこない、寧ろ治ったと言う感触は患者自身が一番良く分かるということを先生は話したと書かれていた一節があったが、それを考えると漢方治療は西洋のイエスノーの世界ではなく、曖昧喪小とした非常に日本的な世界かなと思ってしまう。漢方イコール中国、中国はイエスノーがすこぶるハッキリしているが、どうもちょっと違うようだ。左肩に刺すような痛み、昼織田先生に鍼を打って貰っていたときは右肩だったが、まだまだ身体中を駆け巡るようだ。

2005/05/02 関節の腫れ

左小指第一関節が腫れる。右指関節と並べてみると、あきらかに腫れているのが確認出来る。と同時に右手小指第一関節がズキンズキンと鈍い痛みが走る。長くは続かないが、痛みは又戻ってくるのだ。漢方治療を始めてから約7週間、関節の変形が襲ってくるとは予期していなかったから、かなりショックだ。

2005/05/10 アトピーはまだ？

5回目の診察日 先生から「痒くないか」と問われるが、そういった症状はまだないですと答えると、「そうかあ」と首をかしげた。どうもアトピーがそろそろ出てきても良い頃なのかもしれない。治療開始から2ヶ月だ。「痛みはどうですか」と聞かれたので、指の関節が、、、と答えると、ここに来る前に診察してもらった〇〇医院に何回通ったかとか薬は飲んだかとか聞かれたが、無論2回の診察目で薬を処方されたが飲んでいないと答える。実はこの件は前回までの診察ですでに3回も同じことを聞かれているのだ、カルテにはこういう事は記さないのだろうか。痛みは両手足の膝・指関節・手首関節・足の甲・肘等鈍痛が走るが、痛みが一箇所ですぐ長く続くことはない。時折、刺すような激痛があちこちにあるが、長くは続かない。右膝の痛みで階段の上り下りが辛い日が1～2日あったが、最近は重苦しい感じはあるが階段は問題なく上り下りが出来る。

2005/05/24 治療2ヶ月

6回目の診察日 痛みがぐるぐる駆け巡るという感じは無くなった。しかし、両手指の第二関節がじんわりと痛む、重苦しい感じか。時折第一関節が刺すように痛むが、長くは続かない。

2005/06/21 アトピー出現？

8回目の診察日 耳が痒くて外耳炎が再発したのかと思って先生に聞くと、右の耳を覗き込みながら「左耳がアトピーだ」と大声で言った。アトピー？まだまだ膝や指の関節が時折痛むのになあと思いつつも、「先生、右ですよ、左も診てください」と言うと、「ああ、右耳がアトピーだ。」と左の耳も覗き込んだ。そして「薬のつけ方を教えたって！」とまた大声で言った。外耳炎で荒れている耳に赤い軟膏をつけていたが、先生が耳を覗いた時に「血が出ている」と言っていたけれど、本当に血なのだろうか、赤い軟膏なのでは？と思いつつも握手して立ち上がった。まあ、良い方向に向かってる事には違いないことだし、と妙な納得の仕方隣部屋に向かう。隣には松葉杖をついた先客（先患者？）が居た、リュウマチがかなり重いのだろうか。その方に先生が私を指差して、「この人なんか軽いからもう良くなって来ている（という意味の事を）」と言ったので、再度そうなんだあと嬉しくなった診察日だった。血液検査の結果は血沈が2回続けて6。他の数値も問題なし。痛みが続くことは無いが、時折刺すような痛みが左腕肩下あたりに。また、左右の指関節にも時折ある。

2005/08/11 痛みで寝られず

一旦治まったかに見えた痛みが、また指・足の甲・肩と出てきた。特に昨夜は右肩の痛みが激しく、このような持続的痛みは初めてである。全く寝られないのでお灸を試してみると少しは痛みが和らいだ。今朝の段階でもまだ少し痛みが疼いている。先月5日の血液検査は血沈が2、随分治っているとおもったのだが、どうもそうではないらしい。今月2日の血液検査結果は次回診察の23日だから、まだ先だ。山あり谷ありか。

2005/08/26 右肩の痛み

8/2の血液検査の数値は全く問題なし。にも関わらず、右肩がいつも弱い痛みがある。クーラーで冷えたりすると痛みがだんだん強くなる。左右の手の指関節は相変わらず時々痛み、痛む場所はぐるぐる替わる。

2005/09/6 混在

アトピーと関節の痛みが混在している。かなり治まって来たかに見えた痛みが右足の甲と膝肩、それに左肩と時折痛む。毎日足の甲と膝肩それに手にお灸をする。今日は診察日、血液検査のための採血。織田先生の話では、治療が完治したら松本先生がこれで完治しましたと言ってくれるらしい。うう～ん、終わりはある。

2005/09/15 白斑点模様

アトピーのせいなのか、耳と局部がかなり痒い。両手も少し痒くなってきた。両手の皮膚と局部が白く斑点模様になっている、漢方薬の副作用なのか。両手は日焼けしているのに、斑点模様がやけに目立つ。痛みが時間おきにぐるぐる回るようなことはなくなってきた。しかしまだ常に右肩の痛みは続いたまま。時折右足の甲や両手の小指薬指の付根あたりが疼く。アトピーと痛みが混在している。薬はまだアトピー用薬ということではない。

2005/10/4 ステロイド性白斑症

今日の診察でアトピーの飲み薬に替わった。まだ右肩が少しと2～3日前から左肩も少し痛み出したのだが、あとは両手と右膝が思い出したように痛むくらいで、随分楽になってきた。白い斑模様はアトピーとは関係ないようだ、病名はステロイド性白斑症。リュウマチが治る過程でこれまで4人の患者さんに出ていたと鍼灸の織田先生が言う。ってことはめったにない病気？兎に角アトピーの薬が出たということはそろそろリュウマチ脱出かと希望が湧いてくる。これを書いている現在、左肩が疼くがきつとそのうち治るに違いないのだ。治療は開始して7ヶ月が経った。

2005/10/18 痒み

風呂上りは身体中が痒い、どうも背中にアトピーが出ているようだ。また、耳が痒く薬を付ける時に麵棒で少し強く擦ると汁がドッと滲んで来る、それはそれは悲惨だ。滲んだ汁と赤い軟膏で耳が塞がり聞こえなくなる。

2005/10/27 広がる白斑

首に薄い白斑症が見られる、とうとう顔首に現れてきた。局部や手腕と皮膚の色濃い部分に出っていたので、やがては首や顔面にもと恐れていたが、とうとうやって来た。骨が変形する事を思えばたいした事は無いのかも知れないが、それにしてもショックには変わらない。とうとう来てしまった、という諦観。

2005/11/13 手記

今日の診察で近い内に手記を書いてもらうからと言われる。中間報告手記は沢山あるけれど、完治しましたというものが殆ど無いので、書くなら完治してから書きたいと言ってしまふ。

2005/11/29 白髪

診察日。まだ右肩の疼きが取れないし、時折左肩も痛む。足の甲や膝の痛みは殆ど無くなって来ているが、手は思い出したように疼く時がまだある。痒みは変わらず耳と股間が酷い。特に耳は綿棒で強く擦るとリンパ液が出て止まらないので、痒くても余

り搔かないようにしている。最近診察時に松本先生は耳股間意外に痒いところは無いのかと聞くのだが、期待に反して答えはいつも「無いです。」なのだ。完全にはアトピーに移行していないのだろうと思われる。また白斑症は酷いもので、両手足頭額股間と随分広がってきている。頭の皮膚が白斑症になったせいか、髪の毛が大分白髪化して来ている。関節の変形で歩けなくなるよりはマシだが、白斑症も辛い。

2005/12/13 痔の薬

痔の薬は肛門に挿入するタイプでも皮膚に塗るタイプでもどちらも使ってはいけないようだ。肛門の周りが肌荒れ（皮膚が割れる）するために、この漢方治療始めるまでに市販の痔の薬を塗布していたが、そのためか肛門周りが痛く荒れている。松本先生は何度もカルテをめくり痔の薬のことは初めて聞くぞと怒り出し、痔の薬は使ってはダメだと何度も言うのだ。漢方治療を始めた時インターネットの薬110番で成分を調べて使ってはいけない薬との認識があったため、現在は使っていないが、それまでは随分とお世話になったものだった。それだけにリバウンドがきつく、耳とともにアトピーが酷いところだ。

2005/12/27 RF70

血液検査の結果が良くない、血沈10、RF70。白斑症は治療で出たものなのでリュウマチが治ればもとに戻ると言われる。ちょっとは安心か。

2006/1/1 久しぶりの痛み

右足の甲、左右とも手の平から中指にかけて、久しぶりに痛みが出る。RFの数値が極端に悪いので気になる。

2006/2/18 脱皮

お尻から前部にかけてアトピーがすこぶる酷い。黒ずんで来て皮膚がカサカサになり、やがてポロポロと薄く皮膚が剥けて来る。つるつるになり、やがて皮膚が割れそれがかなり痛い。またやがて黒くなりとその繰り返しだ。皮膚に下着が接触するとそれはもう痛くて耐えられない状態になる。まだ、リンパ液が滲み出して来ないだけでもマシか。耳の方は最近赤い薬を付ける度にリンパ液が滲み出る。したがって、リンパ液が耳に詰り、音が聞えなくなる。右も左もである。最近痛みが少なくなって来てはいるようだ、リュウマチとアトピーの混在状態からアトピーへと少しづつ移行しているのだろうか。治療を始めてからすでに11ヶ月経過している。

2006/2/21 2度

診察日。頭髮が白いので、松本先生に染めているのかと聞かれる。とんでもない！、

昨年10月頃までは真っ黒な髪だったが、治療中に段々白髪になってきたと言うと、手の白斑症を見て「そりゃ当たりまえだ！」と力説する。前回妻とともに診察を受けた時妻が白髪はどうなるのでしょうかと問うと完治すれば元に戻ると言い切っていたのに今回再度聞くと、そんなの分かるかい！と返ってきた。私は啞然となる、一体これはなんなんだ？同じことを2度聞いてはいけない。

2006/2/26 四六時中の痒み

最近のアトピー一部分が異常に痒い、四六時中痒いのだ。以前は風呂上りが痒かったが、今では痒みが時間とは関係なしに襲ってくる。また昨日は指先に力をいれなければ持ち上げられない状態でもものを持ったせいなのかどうか分からないが左手人差し指中指薬指の第一関節が痛んだ。

2006/3/30 まだまだ混在

右手の指の付け根と人差し指第二関節、それに小指の第二関節が時折痛む。もうすっかりアトピーに移行したとばかり思っていたが、まだまだアトピーとリュウマチが混在しているようだ。痒いので麵棒で耳を擦るとリンパ液が滲み出し、耳の穴を塞ぐので聞えにくくなる。顔の額部分は昨年末辺りから全体に白斑で白くなっているが、最近口の周りにも白斑が出だした。身体全体に白斑が出ているが、顔だけは額以外免れてきたがとうとう最後の砦が陥落しそうな気分である。額の部分は前髪を垂らしてなんとなく自分のなかで誤魔化して来たが、口の周りともなるとなるとならない。

2006/4/4 少ない白斑症例

今日は診察日。メール環境があるか聞かれ、中間報告をメールで送るよう言われる。中間報告を書けということはリュウマチがアトピーになって完治が近づいているのだろうか。先程待合室で読んだ完治報告には、治療開始から中間報告まではすぐだったが完治まではさらに2年を要したとあった。先生は白斑症のことも書いてくれと言ったが、白斑症はやはり少ない症例なのだろうと思われる。リュウマチは絶対治るとは言って貰えるが、この白斑症はどうなるのか。女性で白斑症になった方の手記によれば、薄くなって社会復帰出来たことが報告されていたが、症例が少ないために必ず消えるよとはなかなか言えないのだろうと推測する、しかしそれはあくまでも推測だ。それにしても白斑は身体全体が地図状態で、カナダ北部北極海付近の島々といった感じか。

2006/5/1 眉毛睫毛

痛みは左手指の第二関節が疼く、また右足の甲が歩くと少し痛む。最近時折ペキッ（音はしないが）と左右手指の関節が痛むときがある。アトピーとリュウマチの混在が続

いているのだろうか。また左肩が時折疼く。白斑症は確実に広がっている。顔は額以外に口の上や眉毛部分あるいは頬顎と白斑が現れ出している。無論毎朝剃る髭は白いし、眉毛睫毛も白斑部分は白髪になっている。はっきり分かるくらいになりつつある。

2006/5/9 皮膚を裂く

アトピー部分に指先で薬を付けているとき、薬が無くなり指で皮膚を擦ってしまった。勢い余って皮膚を引っ張りすぎて、皮膚が15ミリ程裂けてしまった。皮膚が弱くなっているとは認識していたが、これほど簡単に裂けてしまうとは思っても寄らなかった。激痛が走り一気に鮮血が噴出してきた。最近の両手の疼くような痛み、顔面の白斑症の広がり、なかなか好転の兆しが見えないアトピー、まだまだ先は長そうだ。先日来の風邪が治まっている。最初は鼻詰まりと悪寒がして、やがて悪寒が無くなり鼻だけがぐずぐずしていたが、それも漸くしてなくなった。その間ずっと処方された風邪薬を飲んでいただけ、あれは本当に風邪だったのだろうか疑問に思っている。もしかしたら花粉症ではなかったのかと。確かなことは結局わからない儘だ。

[最後に]

リュウマチ治療投薬経歴なしということで簡単に治るかなと思っていました。しかし花粉症の薬を飲んでいたり、外耳炎の塗布薬、痔の塗布薬と過去があり、なかなかそうもいかないようです。一生付き合っていくかなくてはならないとされているリュウマチを「治す」ことに挑戦している訳ですから、そう簡単にはいかないと覚悟はしていても、先が見えない状態が続くとつい挫けそうになります。そういう時に同じ治療の体験記を読ませてもらう事によって、勇気付けられます。私の拙い中間報告でも同じリュウマチ患者さんの役に立てばと思いつつ、中間報告を書いてみました。早く治り完治報告を是非書かせていただきたいものだと思っています。